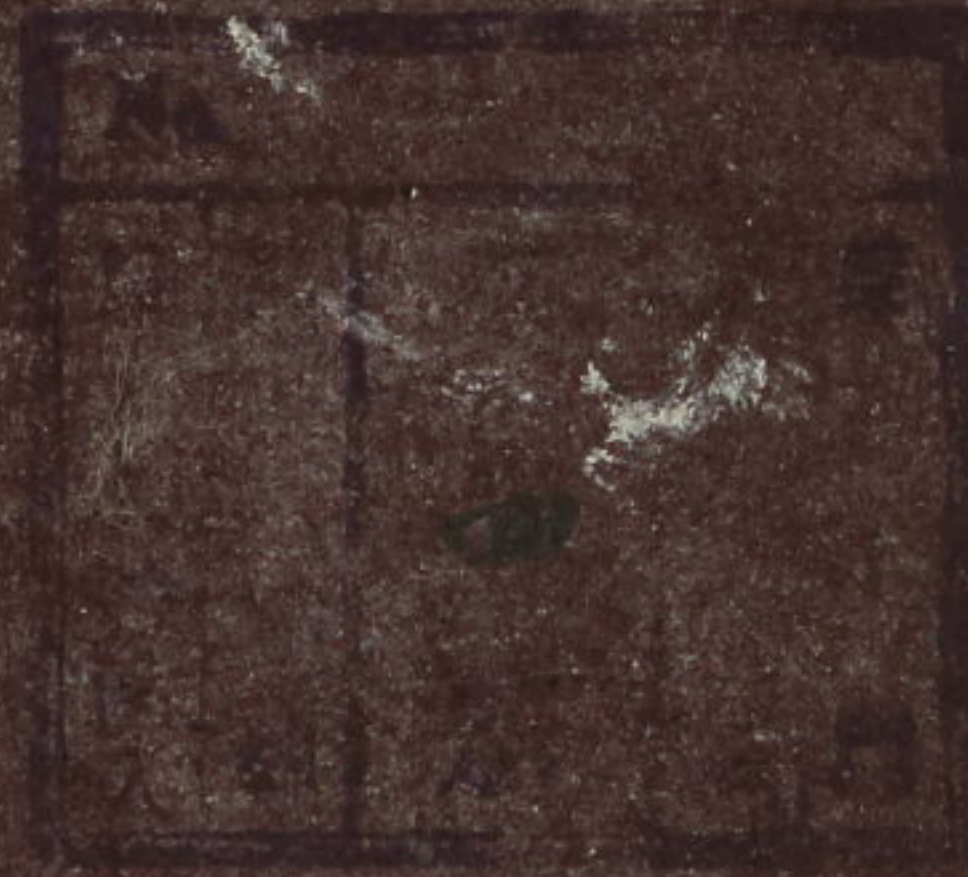




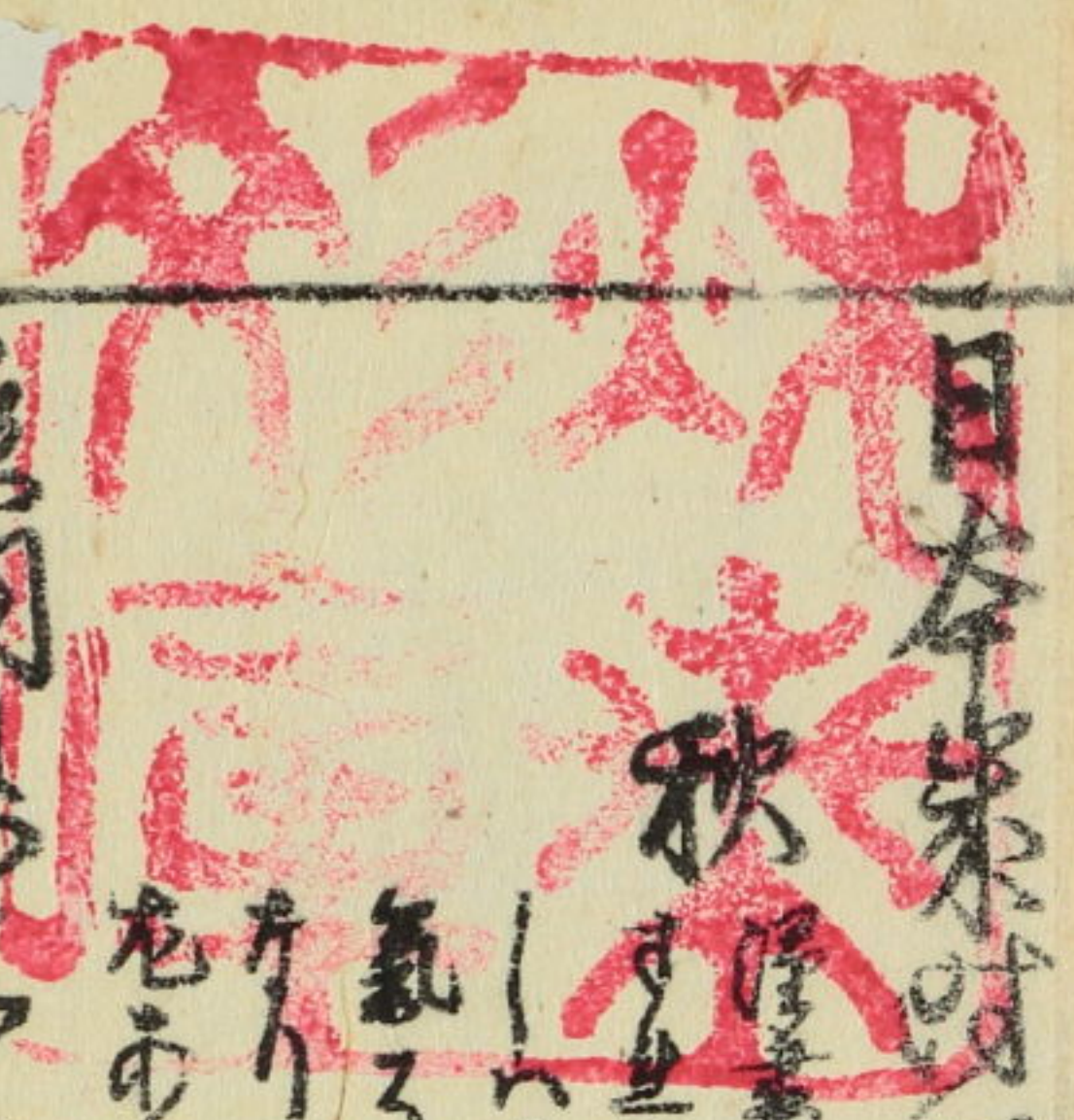
鑄重

日本歳時記

秋



日本書紀卷之九



秋

律曆志云秋之始也... 氣之清也... 乃入之口... 乃入之口... 乃入之口...

秋之月これと... 秋之月これと...

秋之月これと... 秋之月これと...

秋之月これと... 秋之月これと...

秋之月これと... 秋之月これと...

秋之月これと... 秋之月これと...

秋之月これと... 秋之月これと...

Vertical text on the left margin, possibly a page number or reference.

驚きしつらりまがくれおろしむ他乃やまひとて
小児たらくわく火よ魚りしす

揚る海よいしく燃乃口をくり氷とのとまみり
衣服と忌事しとて

金匱要畧のいしく秋九十日食秋の膳と食へり

孝康のいしく古人の云秋薑と食ふやうなれとて

志氣と信せしむ膳を修練も又林薑の人の

天年と天のいしく強ふ趣りしとて九月

おろく薑と食へし喜よや下り眼と馳走のとて

魚のとて

七月 立秋ハ八月の暮ハ九月の中○七月の暮ハ八月の暮

七月の暮ハ八月の暮ハ九月の中○七月の暮ハ八月の暮

六日沐浴

七日七夕と云又聖母をいしりしり新羅家時記よとて

七月七日織女牽牛星今乃おまり

五雜俎の元織女牽牛の事續妙法記よとて

の長言とわけ物志よハ兼提の浪伝と記せり

まじし婦人女子の信くは兼とて信を可なり人

軍全書とて兼提とて天上乃列宿とて汚穢と

穢く物やを赤やしむとて兼提とて兼提とて

乃法撰集よる治親王

中か所へ水もわく一友乃たえ世裏行りたりさるの
て夕乃の杖杖

野澤月地一おと来抵經年所恨多最明朔
波車雨不夜回脚波天河

又 晏殊原

野澤月地一おと来抵經年所恨多最明朔
波車雨不夜回脚波天河

又

織女牽牛雙扇開年一友正何事言天上

梅お見程勝人間去不回

○今日靈癩とくふ車りり十節記よとくひり
氏乃婦子七月七日は節を盡鬼縁とて今
病とてしむろれお日ほぬよ麦餅とてろく
々名はよりりく素餅とてろくの垂とまら流
んこれ日素餅とてろく瘡癩とてろく
は後たろりありあふとてろく
是溼く威く肉飲食色愁く傷られて病り
月後母も夏傷は暑秋は瘧癩とてろく
く揚生をへとのづろろろろろろろろろろ

しるし風俗とて其れハ如ク事と云々
浮世氏目違ふ事と海會して其れハ蓋蓋也
片ハ下書とゆいて五條とあはじくし我國
あり孟蘭盆乃休養と云々事聖武天皇
元年と始りしより後日本紀より云々事
中事魂を六等し一ハ最大也

きよくも世に花ははらふとゆひ世に花ははらふと云々

○五雜俎より云々七月申元日西書云々
母儀鬼道女痛下方有し功徳くと後々
佐の信鬼と云々會と云々

以後より云々

極樂世界より云々

てこれとまづる云々

○能書より云々

舞と能す云々と云々

ハ尺のれ云々

中元ノ飛鳥と能と云々
ほよほよりしと云々
中元ノ飛鳥と能と云々
中元ノ飛鳥と能と云々

○又し日世任山海乃漁獲と世任云々

るや虎の百友と云々



まじむと怨よとてかへ

七月八日候才一様風ふ才二白雲津未三雲霞

右立秋の三候なり才四鷹乃冬多才五五蟻

蟻肅才六未乃登七たむ考八三候なり

立秋五午六刻十分夜四午七刻五十分夜三

五午四刻十分夜四午五刻五十分月念

八月

皇極八月の節候は八月の中八月の星は仲秋は
極秋は徳と秋ととも八月の初日を八月の初日とす
八月の初日は八月の初日とす八月の初日は八月の初日とす

朔日倍々八朔と云今日たのみそとて人よ物と違跡

事有りある根はよとてこれより又よ本候なり

西遊少をわくす世俗の節候なり或候か記の建

年号り此よりい事有りたて先八田のそとて

と折後かんとあつとよへく人なりとて此より

とる又清明も大岡れ又承の記よ世七八年より

節よ天下に流布せりとのそとて此より

此乃事なりとて或候よ六後世流つとて

て加威通方これ多にや有なり時山國とて

さありさびとてを智乃男女志よなりけり

多し此よ聖とてのりて世流けり此嘉瑞なり

の物後れ後... 始まる事... 久...
... 人... 延... 式... 中... 身... 心... 足
... 史... 事... 始... 終... 一... 一...
... 世... 中... 始... 終... 一... 一...
... 事... 始... 終... 一... 一...
... 今... 書... 一... 一...
... 秋... 一... 一...
... 一... 一... 一...
... 一... 一... 一...

月令... 義... 潜... 報... 書... 一... 一...
... 一... 一... 一...
... 一... 一... 一...

○今日 禁裡より 將軍家より物納り又 お掌家
... 一... 一... 一...
... 一... 一... 一...
... 一... 一... 一...

十五日中秋といふ秋九十日... 一... 一...
... 一... 一... 一...
... 一... 一... 一...

今日、播磨のあつり中、教生會、一季のいじ事、人
皇、四十四代元正天皇乃所字、長徳元年九月、又、元
日向、西園、乱、送、す、と、此、地、再、四、哀、り、流、る、字、依、の
ハ、播、磨、乃、所、字、幸、遠、勝、波、皇、采、御、軍、と、引、率、志、く
彼、國、と、征、し、事、成、ず、く、教、と、亡、し、り、り、り、た、ら
ハ、徳、乃、所、託、宣、よ、は、皇、の、合、戦、多、く、け、人、と、教、い、け、
有、形、會、と、あ、は、こ、う、一、部、託、ま、し、く、た、れ、ハ、徳、國、
と、て、あ、ま、く、い、け、教、と、り、び、い、け、り、り、一、按、桑、記、に
見、え、り、ま、す、と、ま、さ、く、播、乃、所、託、有、ま、り、一、部、
と、い、は、せ、て、は、儀、と、り、ま、り、

は、事、の、つ、く、く、を、同、他、え、り、り、り、按、桑、合、編

日、わ、ハ、月、十、日、教、生、會、呈、上、百、餘、書、案、有、ハ、國、言、

蘇、麻、五、部、と、ま、り、廿、一、年、の、ひ、り、奇、合、ハ、新、中、紀、を

世、の、か、へ、は、あ、ら、ま、を、ま、く、い、は、し、り、ま、り、と、ま、り、按、桑、記、に

○今、ま、ま、秋、れ、乃、中、あ、く、結、よ、月、以、成、書、ひ、り、あ、り、月、夕
と、ま、り、立、夕、と、ま、り、一、部、人、證、案、乃、勝、と、依、り、り、又、ま、り
林、經、ハ、孫、植、よ、と、ま、り、今、秋、月、と、教、よ、り、ま、り、ま、り、
危、れ、世、の、事、に、一、し、得、人、又、人、を、誅、わ、り、り、之、を、
右、樂、府、と、結、好、怨、乃、あ、り、一、部、人、の、中、秋、れ、乃、中、
ま、り、一、部、と、依、り、り、あ、り、時、を、渡、れ、世、の、り、り、を、あ、り、

又のふこはるは骨餅と聚して之の
 概より月餅と号して之を又月餅と号
 之と合して春月令と云ふ一月令廣義の云
 歐陽詹既月時序云月之為既冬則整衣大室
 別燕重大奠中燕月氣後入蔽与後復名既秋之
 於時後夏先冬八月於時季如孟秋十五於既月
 之中時於天運則定是均取於月數則蟾兔圓況
 燠暄不流大宅修時蟾蜍細蟾舞上深昇其
 入西極肌骨与之疎涼神氣与之清冷
 ○書之要云月秋之月也水之極神也全氣

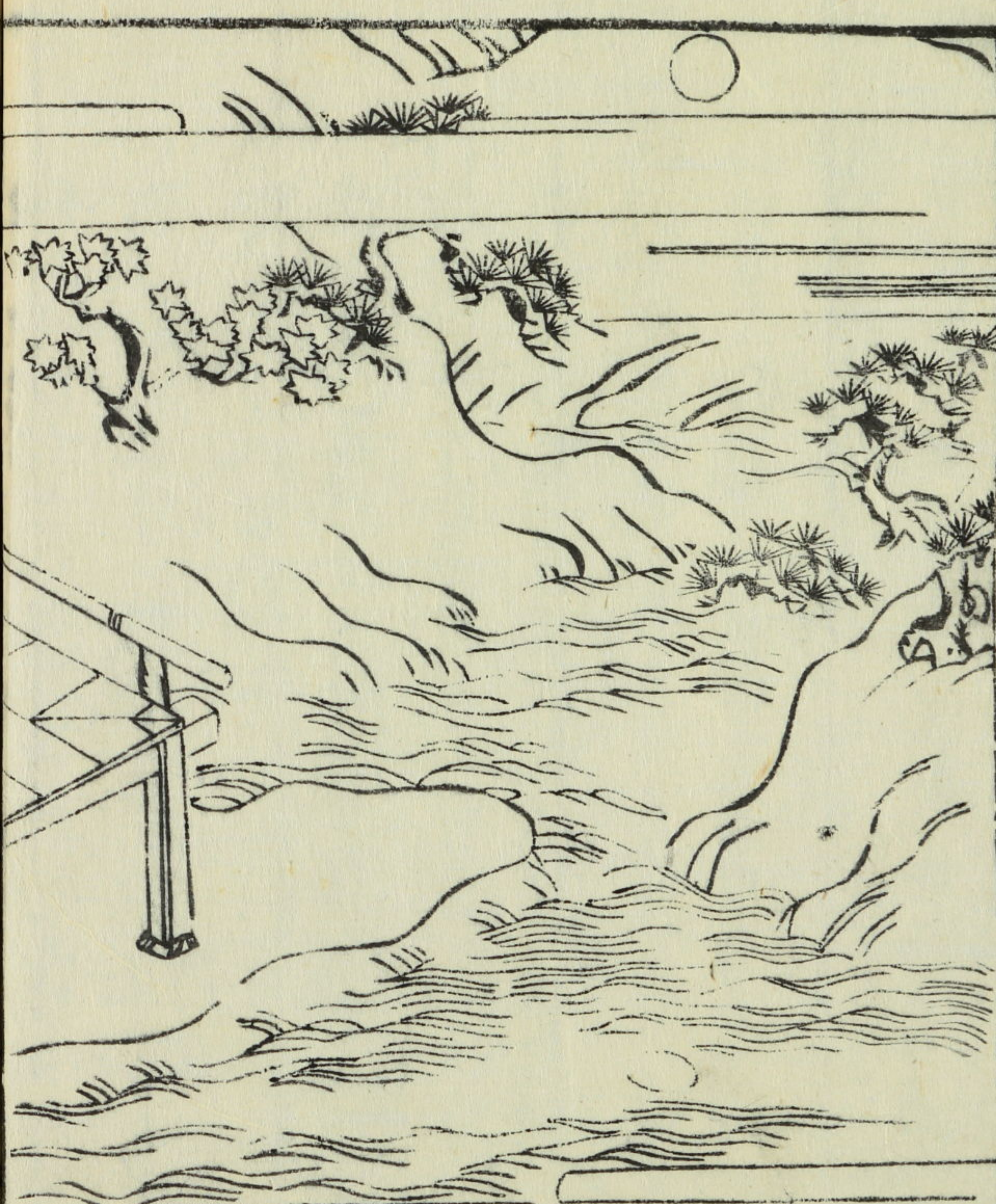
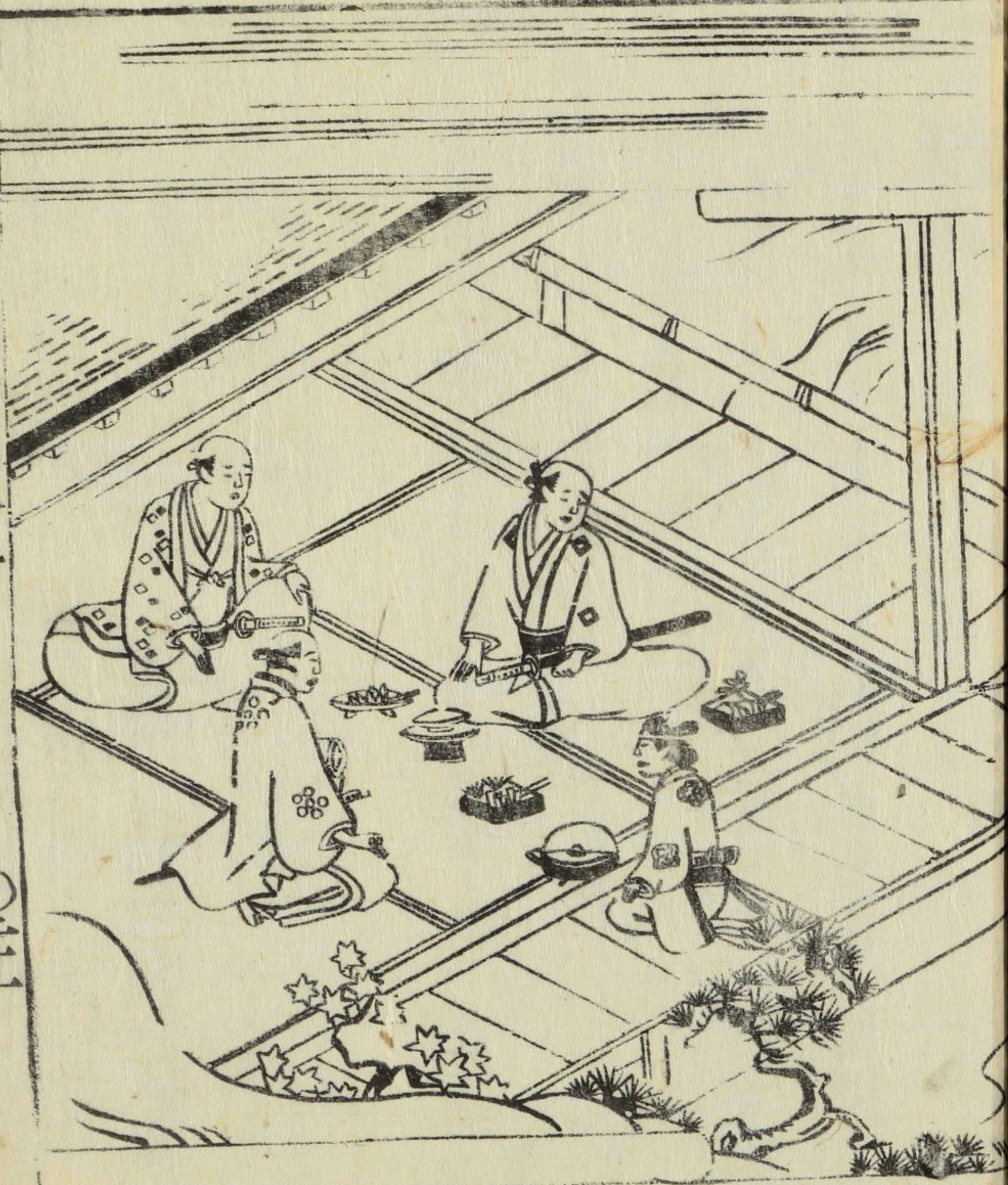
全水性也其外分其重則知天地間也感各一氣
 水乃全還蓋月因秋時清氣散使之純人謂之精
 後古今集云天房乃神也

月之於人乃其心之神也今月乃其心
 形物候集云一也達法師

之月一也其心之神也今月乃其心
 形物候集云一也達法師

何者又神其本也也如一月之神也
 全氣集云源氣居

之月一也其心之神也今月乃其心



張景安の中煉乃得

予は秋夜掛玉盤。瘦橋香。想多。西河此月

影。新。人。自。今。青。冷。眼。看。

新。子。競。う。得。

池。邊。得。月。生。卻。悲。此。夜。易。天。明。還。催。秋。

秋。江。水。添。入。銅。臺。靴。曉。更。

杜。子。美。の。詩。

滿。目。飛。明。鏡。屏。心。折。大。刀。轉。蓬。以。地。老。攀。桂。仰。玉。宮。

水。路。疑。霜。雪。林。樵。見。羽。毛。此。時。睡。白。兔。空。欲。數。秋。毫。

邵。康。節。の。詩。

一。年。一。度。中。秋。夜。十。度。中。秋。九。度。佳。未。臨。盡。須。尚。

長。中。壽。明。仍。候。對。天。心。望。重。照。雲。情。那。後。不。能。

親。時。志。更。深。洗。老。古。人。詩。句。好。何。處。千。里。共。今。

○。今。夜。眼。盡。萬。葉。と。萬。の。花。並。に。て。る。の。こ。と。多。し。と。

月。令。度。數。よ。見。え。く。り。之。も。く。牡丹。と。梅。一。載。る。事。

今日。一。下。一。常。五。の。宜。く。飲。て。代。根。と。帶。く。洗。し。

賣。酒。と。心。く。洗。へ。丸。妙。寺。り。

二十七日。孔子。の。生。れ。日。の。日。あり。これ。孔。子。の。夜。あり。此。が。夜。候。由。り。

晦。日。休。浴。

そ。ろ。ろ。と。一。日。社。日。そ。く。三。秋。乃。後。才。又。の。成。其。日。土。の。

社とあるは所（既二三月の社）世に社とあるは天と

社とあるは所（既二三月の社）世に社とあるは天と

社とあるは所（既二三月の社）世に社とあるは天と

社とあるは所（既二三月の社）世に社とあるは天と

社とあるは所（既二三月の社）世に社とあるは天と

社とあるは所（既二三月の社）世に社とあるは天と

社とあるは所（既二三月の社）世に社とあるは天と

社とあるは所（既二三月の社）世に社とあるは天と

社とあるは所（既二三月の社）世に社とあるは天と

社とあるは所（既二三月の社）世に社とあるは天と

社とあるは所（既二三月の社）世に社とあるは天と

社とあるは所（既二三月の社）世に社とあるは天と

社とあるは所（既二三月の社）世に社とあるは天と

社とあるは所（既二三月の社）世に社とあるは天と

社とあるは所（既二三月の社）世に社とあるは天と

社とあるは所（既二三月の社）世に社とあるは天と

社とあるは所（既二三月の社）世に社とあるは天と

社とあるは所（既二三月の社）世に社とあるは天と

社とあるは所（既二三月の社）世に社とあるは天と

月中後郊神は越銀を

は月家此の人の新穀と賞して往きの事

く此の秋盛と容る

此月強風あり時人多く風は盛しく

宅中まよふく花蔓書と前

くや花のまよふくは月の中

萬草茂獲と上の初前

此の秋の盛と前

わづきれはま

くは

くは

くは

くは

くは

くは

くは

くは

くは

くは

ころの成性阿

八月葉と採しハチノハハ葉集りて之を採根多し八月採

秋枝葉於津洞アキエ採は下秋採宜しアキノハ葉集り各

採其葉也アキノハ二月乃採

八月竹と採しハチノタケハ月令度集り六月ハ

竹と採しハチノタケハ竹と採しハチノタケハ竹と採しハチノタケ

竹と採しハチノタケハ竹と採しハチノタケハ竹と採しハチノタケ

竹と採しハチノタケハ竹と採しハチノタケハ竹と採しハチノタケ

八月子摘採しハチノコと採しハチノコハ布と採しハチノコ

と採しハチノコハ布と採しハチノコ

八月天等雨冷なり多しハチノアメと採しハチノアメハ布と採しハチノアメ

生密羅子ハチノシと採しハチノシハ布と採しハチノシ

生密羅子ハチノシと採しハチノシハ布と採しハチノシ

生密羅子ハチノシと採しハチノシハ布と採しハチノシ

八月六日候才一階ハチノヒと採しハチノヒハ布と採しハチノヒ

生密羅子ハチノシと採しハチノシハ布と採しハチノシ

生密羅子ハチノシと採しハチノシハ布と採しハチノシ

生密羅子ハチノシと採しハチノシハ布と採しハチノシ

生密羅子ハチノシと採しハチノシハ布と採しハチノシ

死より此房これと申すこれ汝り命の如くわくや
 只り世人九日よは此の毎に山よむつと氣流との
 婦人菜黄囊と著らまけかき人（此は菜黄の事）
 猪乳（此は猪乳の事）九月菜黄と佩（佩は佩する事）ひきまのかり菊花（菊は九月に開く）
 費（費は費用の事）去房植系（去房は去る事）の定と遊（遊は遊ぶ事）の種と教（教は教える事）つとひくうれ本（本は本の事）
 西系雜記（西系は西の事）の歴史人の信（信は信じる事）見賈（賈は賈する事）佩（佩は佩する事）蘭（蘭は蘭の事）室（室は室の事）の九月九日は連解
 と食（食は食する事）ひ菊花（菊は九月に開く）酒とのむ（むはむく事）ゆきれ人（人は人の事）を（をはをる事）し（しはしる事）て（てはてする事）あま（あまはあまの事）り（りはりの事）
 下り（下りは下る事）は（はははる事）て（てはてする事）を（をはをる事）由（由は由る事）と（とははる事）あ（あはある事）く（くはくる事）候（候は候ふ事）と（とははる事）信（信は信じる事）多（多は多する事）い（いははる事）連（連は連する事）解（解は解する事）
 ち（ちははる事）の（のはの事）ま（まはまする事）り（りはりの事）植（植は植する事）系（系は系する事）の（のはの事）始（始は始する事）り（りはりの事）
 と（とははる事）ひ（ひはひる事）て（てはてする事）ま（まはまする事）り（りはりの事）の（のはの事）菜（菜は菜の事）黄（黄は黄の事）と（とははる事）辟（辟は辟する事）邪（邪は邪の事）氣（氣は氣の事）と（とははる事）延（延は延する事）壽（壽は壽の事）
 察（察は察する事）ら（ららる事）に（にははる事）あ（あはある事）る（るはる事）九（九は九の事）日（日は日の事）は（はははる事）二（二は二の事）物（物は物の事）と（とははる事）かり（かりはかりの事）て（てはてする事）陽（陽は陽の事）九（九は九の事）乃（乃は乃の事）尼（尼は尼の事）と（とははる事）清（清は清の事）
 と（とははる事）あ（あはある事）る（るはる事）人（人は人の事）惡（惡は惡の事）也（也は也の事）つ（つはつする事）く（くはくる事）を（をはをる事）ひ（ひはひる事）後（後は後の事）授（授は授ける事）と（とははる事）す（すはする事）る（るはる事）に（にははる事）た（たはたする事）ず
 用（用は用の事）を（をはをる事）ら（ららる事）同（同は同の事）と（とははる事）行（行は行の事）ふ（ふはふする事）九（九は九の事）月（月は月の事）九（九は九の事）日（日は日の事）律（律は律の事）也（也は也の事）種（種は種の事）の（のはの事）南（南は南の事）り（りはりの事）數（數は數の事）九（九は九の事）が
 る（るはる事）あ（あはある事）る（るはる事）俗（俗は俗の事）に（にははる事）い（いははる事）は（はははる事）と（とははる事）尚（尚は尚の事）ん（んはんの事）と（とははる事）菜（菜は菜の事）黄（黄は黄の事）房（房は房の事）と（とははる事）お（おはおする事）て（てはてする事）は（はははる事）り
 挿（挿は挿する事）じ（じはじる事）氣（氣は氣の事）惡（惡は惡の事）氣（氣は氣の事）と（とははる事）辟（辟は辟する事）除（除は除する事）と（とははる事）初（初は初め）氣（氣は氣の事）と（とははる事）あ（あはある事）せ（せはせる事）ぐ（ぐはぐる事）と（とははる事）ま（まはまする事）り
 と（とははる事）ま（まはまする事）り（りはりの事）是（是は是の事）が（がはがする事）人（人は人の事）西（西は西の事）夜（夜は夜の事）た（たはたする事）る（るはる事）又（又は又の事）今（今は今の事）日（日は日の事）菊（菊は菊の事）花（花は花の事）酒（酒は酒の事）の（のはの事）酒（酒は酒の事）は
 醫（醫は醫の事）家（家は家の事）の（のはの事）方（方は方の事）が（がはがする事）く（くはくる事）む（むはむする事）む（むはむする事）物（物は物の事）法（法は法の事）菊（菊は菊の事）花（花は花の事）の（のはの事）舒（舒は舒する事）る（るはる事）時（時は時の事）た（たはたする事）る（るはる事）墨（墨は墨の事）と（とははる事）墨（墨は墨の事）
 花（花は花の事）の（のはの事）香（香は香の事）米（米は米の事）に（にははる事）ま（まはまする事）り（りはりの事）と（とははる事）ま（まはまする事）り（りはりの事）と（とははる事）讓（讓は讓する事）と（とははる事）本（本は本の事）年（年は年の事）九（九は九の事）月（月は月の事）九（九は九の事）日（日は日の事）
 此（此は此の事）と（とははる事）取（取は取る事）あ（あはある事）り（りはりの事）と（とははる事）これ（これは此の事）と（とははる事）飲（飲は飲む事）な（なはなする事）と（とははる事）菊（菊は菊の事）花（花は花の事）酒（酒は酒の事）との（のはの事）酒（酒は酒の事）
 西（西は西の事）系（系は系する事）雜（雜は雜する事）記（記は記する事）の（のはの事）方（方は方の事）と（とははる事）ま（まはまする事）り（りはりの事）

○五（五は五の事）花（花は花の事）位（位は位の事）代（代は代の事）中（中は中の事）人（人は人の事）日（日は日の事）と（とははる事）深（深は深の事）く（くはくる事）よ（よはよする事）う（うはうする事）檄（檄は檄の事）年（年は年の事）と（とははる事）七（七は七の事）夕（夕は夕の事）多（多は多する事）陽（陽は陽の事）八（八は八の事）中（中は中の事）
 子（子は子の事）を（をはをる事）賀（賀は賀する事）と（とははる事）る（るはる事）也（也は也の事）此（此は此の事）は（はははる事）俗（俗は俗の事）多（多は多する事）き（きはきる事）り（りはりの事）と（とははる事）升（升は升の事）月（月は月の事）日（日は日の事）の（のはの事）間（間は間の事）を（をはをる事）
 志（志は志の事）と（とははる事）陽（陽は陽の事）教（教は教の事）の（のはの事）あ（あはある事）り（りはりの事）と（とははる事）ま（まはまする事）り（りはりの事）これ（これは此の事）古（古は古の事）人（人は人の事）湯（湯は湯の事）と（とははる事）高（高は高の事）と（とははる事）高（高は高の事）

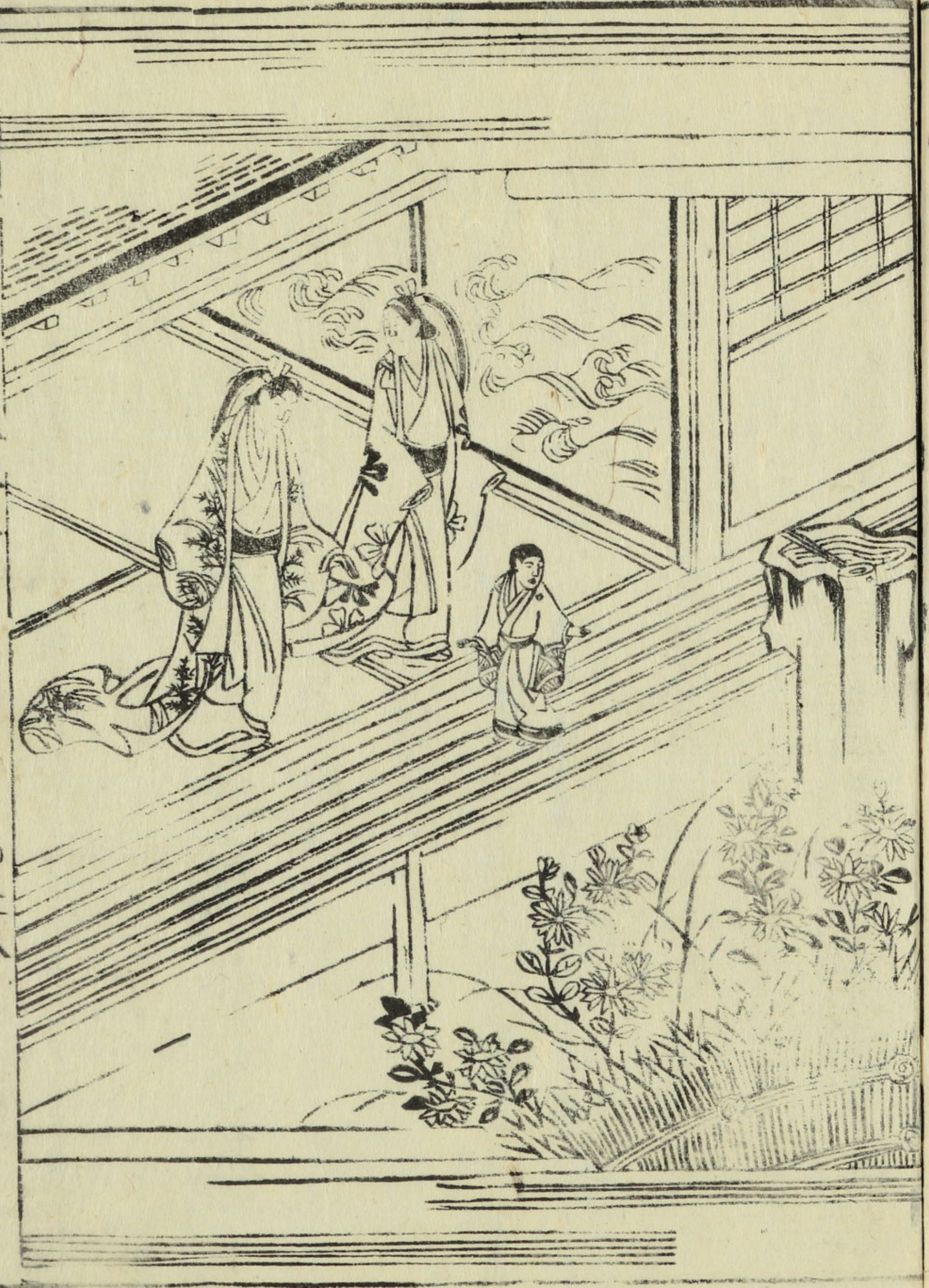
なりし昔の事に見て下り山後平一とていふ人
のまこといふ下り山後平一とていふ人
とていふ山後平一とていふ人
ていふ山後平一とていふ人

續千載集より新撰別當集

のまこといふ下り山後平一とていふ人
とていふ山後平一とていふ人

長月やまよひの夜も花の枝に万世榮ふとていふ人
とていふ山後平一とていふ人

一見其花只自羞蕭然短髮不整秋池人為愁



鳥紋帽袖倚西風滿眼愁

遊約月九日乃啓

履齒酸翻叶滿沙云亮月展帽舞斜西風皓月

備黃鸝林上甘公立菊苑

杜牧九日寄公想多子信小

江漸秋新雁初志與空樓垂上登女傲人世冠蓬

平口笑菊菊頻插滿院晴但擬歌新醪佳節

不用老心怨落暉在後今來已如此牛山何必

猶沾衣

○今日為紀其意甚以味甘之而思之第其團

菊心在九月一更一絲布九月一日一月令度最

十日團倍今日一更一夜之月晦日一更終之佳

以正下より乞まる終式一六ありす

十三日 倭俗今有月紙書の事一中秋此一古画

菊如之終一八月十二日九月十三日ハ書寫よりけ書

清明なる前一月と敬ふ良有とす見ん一りある

とも正祝他れお也と云く此其牛新と添く考より

又月小大小あまハちるる有と健とすらに一り元秋

冬月と美さる用なり中柱より一り一り月と書す

不佳とせり我國又九月十三夜と用く月紙書

と... 八月... 洗よ... 十九夜... 八月... 洗よ... 十九夜... 八月... 洗よ... 十九夜...
八月... 洗よ... 十九夜... 八月... 洗よ... 十九夜... 八月... 洗よ... 十九夜...
八月... 洗よ... 十九夜... 八月... 洗よ... 十九夜... 八月... 洗よ... 十九夜...

八月... 洗よ... 十九夜... 八月... 洗よ... 十九夜... 八月... 洗よ... 十九夜...
八月... 洗よ... 十九夜... 八月... 洗よ... 十九夜... 八月... 洗よ... 十九夜...
八月... 洗よ... 十九夜... 八月... 洗よ... 十九夜... 八月... 洗よ... 十九夜...

これの辨月乃とて是なるをそとせたるにそとてはる亦

兼平忠通 号性性 寺殿 九月十三夜 翌月持し

用惣寂 きんこつとて 月持院 あいのぞう 徳島藩 とくしま 徳島藩 とくしま 徳島藩 とくしま

徳島藩 とくしま 徳島藩 とくしま 徳島藩 とくしま 徳島藩 とくしま

徳島藩 とくしま 徳島藩 とくしま 徳島藩 とくしま 徳島藩 とくしま

晦日 沐浴

は月部遊して血脈と打撃之

と旬小少まとうへ下旬にたまと時へ一まそ秋とそく

そと變とる秋と時との氣とてうと時と月令度義とそり

時肥饒 いさ ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん

十月以後十二月初きうぐちうぐち

元業とそ向ふ九月のあふ取りれ八日に乾へ一十月以後

稼 たか のハ たか 乾 たか 一 たか 一 たか 一 たか 一 たか 一 たか 一

一 たか 一 たか 一 たか 一 たか 一 たか 一 たか 一 たか 一

一 たか 一 たか 一 たか 一 たか 一 たか 一 たか 一 たか 一

一 たか 一 たか 一 たか 一 たか 一 たか 一 たか 一 たか 一

陰と干へ

は月持丹芍薬及新法果本とて一横とて一と月

令度義とそ向ふ九月のあふ取りれ八日に乾へ一十月以後

稼 たか のハ たか 乾 たか 一 たか 一 たか 一 たか 一 たか 一 たか 一

以... けりたる所とふハ肥土を入路...

去年正月二月... 新穀へ... 新に集り

は月粟と收獲へ一月令度穀よりく... 取後一粟と

取水多し肉よりくうくものを去日おり油と

炒く冷し新壺に入油一壺粟一壺... 油と一壺

一壺一壺入る多きなりし竹葉と油... 油と

と竹葉より乃どくかなる物おく... 油と

いさる性一たれ壺よりくむ... 酒等より

つららなりれ又塩水一二枚... 飯おし日一併

胡椒と押せ糞一八重へ一とそ... 又晒山の中ハ野人の

後より生粟と二月日小り... 後能考く又日初

壺より收りとり玉ハ出く... 壺より

又大粟と生ふるく餅一玉... 粟乃葉生まると

やさうの... 壺より入る... 壺より

用土の布一粟此出る... 小元と一あけ壺の

小ためさう... 壺より... 壺より

生せす久し... 壺より... 壺より

肉より... 壺より... 壺より

は比米穀と粟... 用多し

此月量と食... 痼疾とが... 糞と

